

東芝争議の紹介と 会社の異常な労務管理

東芝 賃金・資格差別是正 争議とは

- ①1988年 労働運動を強める東芝の会を結成
労働組合の強化、要求実現、差別是正に取り組む
- ②1995年 東芝の職場を明るくする会を結成
第1次申立人10名が神奈川県労委申立
全国12工場の45名・差別是正社長申し入れ
- ③2001年 第1次申立人が地労委で勝利命令
- ④2002年 青梅工場8名・差別是正本社申し入れ
- ⑤2003年 第2次申立人9名が、神奈川県労委申立
東京・神奈川6工場30名・差別是正社長申し入れ
- ⑥2004年 第1次申立人が、中労委で勝利命令
- ⑦2005年 東芝争議支援共闘会議を結成
退職者58名・早期全面一括解決社長申し入れ
中労委が東芝に命令履行を求め緊急命令申立
- ⑧2006年 第2次申立人が、県労委で勝利命令
(命令の要旨は下の枠に記入)
申立人と職場の仲間96名が解決要求書提出
- ⑨2007年 中労委で和解協議と再審査が進行中。
差別の是正と償いを求め全面一括解決を要求

東芝では下表のように、1960年代から現在まで警備公安警察官を多数雇い入れ、労働者の監視や秘密組織の指導育成にあたらせてきました。

所属	氏名	東芝での部署
神奈川県警本部	初鹿 真	勤労部、堀川町
鶴見警察署	藤原 正一	タービン、京浜、勤労部
川崎警察署	志田 鉦八	小向工場、勤労部
加賀町警察署	中田 雅明	小向、勤労部、横浜事業所
大和警察署	鈴木 清	玉川、那須工場
川崎警察署	折館 博	中央研究所
神奈川県警本部	広瀬 正	音響、磯子工場
神奈川県警本部	大倉今朝四郎	柳町工場
警備課公安係	ほかにも数名有り	勤労調査主査など歴任

また、本年6月、国民監視活動で批判を浴びている、自衛隊情報保全隊の幹部が東芝へ天下りしていたことが明らかになりました。

自衛隊離職前部署 (階級)	天下り先会社名
情報保全隊本部付 (准尉)	東芝セキュリティ
情報保全隊(札幌)付 (3佐)	荏原エンジニアリングサービス
情報保全隊(千僧)付 (曹長)	川崎重工神戸サポート
情報保全隊(北熊本)付 (曹長)	総合警備保障
情報保全隊長 (陸将補)	東芝
情報保全隊本部付 (1佐)	太平サービス
情報保全隊(姫路)付 (3佐)	弘済企業
情報保全隊(小郡)付 (曹長)	第一道路サービス
情報保全隊付 (曹長)	全日警

第2次神奈川県労委命令の要旨

- 一、東芝が、申立人らを「問題者」として排除し組合活動の弱体化を意図して、差別扱いをしてきたのは、不当労働行為である。
- 二、秘密組織「東芝扇会＝自己啓発の会」を活用した組合支配介入は、不当労働行為である。
- 三、東芝は、申立人の賃金、資格、等級、役職の差別を是正すること（主務・作業長等の役職にあった者として扱うこと）。
- 四、東芝は、是正後の賃金・賞与の格差相当額に年率5分相当額を加算して支払うこと。
- 五、東芝は、縦1m、横1.5mの白紙に記載した謝罪文を本社と各工場入口に掲示して他の従業員にも周知し、組合活動の自由を具体的に保障すること。（2006年10月25日）

扇会から「自己啓発の会」へ 秘密組織で労働者を相互監視

自己啓発の会「やなぎ」会員アンケート

20 ……出張扱いで思想教育？まで受けた者の集合秘密組織が自主活動とは言えない。ある外部団体も認める
ところである。

35 「職場管理者教育」を受講して会員になっているが、会の存在がイリーガルなため、情報を共有化するべき職場の同僚には「組合の集まりがあるからお先に」と言いながら会の集まりに出席したりしている。もっと公明正大に活動できるよう会社側に再考していただきたい。

東芝深谷工場の液晶開発技術者

重光さんにご支援を 過労うつ病解雇裁判の傍聴を

同僚が2人も自殺に追い込まれた職場で、液晶製品の開発技術者として働いていた重光由美さんは、過労死ラインをこえる長時間残業・過重労働を何ヶ月も繰り返すなかで「うつ病」になってしまいました。
重光さんが、「過労うつ病・労災」を熊谷労基署に申告したところ、東芝は不当にも解雇しました。
また、熊谷労基署は会社の言い分だけを採り、労災不支給の不当決定をしました。